

子どもは地域で育つ地域は子どもで結ばれる



上富田町立生馬公民館

公民館の取組概要・経過

きっかけ

- 学校の課題と公民館の課題の共有
- 乳幼児をもつ母親（父親）の居場所不足
- 管内の生馬小学校がH30にコミュニティ・スクール導入

取組

- 保育所や幼稚園に入園前の子供と保護者の居場所
- 放課後の学習支援と居場所づくり
- 気軽に参加できる親子行事の計画と実施
- CS導入をきっかけに、学校行事とPTA行事と公民館行事を共有し、地域学校協働活動を実施。

取組による成果や効果、大切にしていること

上記の取組を通じて、以下の成果を生み出すことができた。

- 小学生とその保護者の世代を中心に、公民館の利用者が大幅に増加した。
- 事業に参加した小学生が、中高生になってもサポートとして参加してくれることで、地域への参画意識が育っている。
- 親子行事とPTA行事を協働で行うことで、保護者世代による地域の課題意識が育っている。

人のつながり # 誰も見捨てない # 地域は子供で結ばれる

都道府県名	和歌山県	公民館対象人口	1938人	インターネット接続環境	有
市区町村名	上富田町	建物設置年月日	昭和52年4月1日	来館者利用可能PC台数	0台
運営主体	☒ 市町村教育委員会 ☐ 指定管理者 () ☐ その他 ()				
来館者数	☒ 学級・講座 400人 ☒ 貸館、サークル活動 30人 ☒ 講演会、展示会等 232人 計 662人 ☐ その他 0人 ()				
職員数	☐ 専任 0人 ☒ 兼任 1人 ☒ 非常勤 4人 計 10人 ☒ ボランティア協力者 5人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)				
予算	☒ 市区町村予算 ☐ 委託金 ☐ 自治組織等予算 ☐ 寄付等 ☐ その他 ()				
公民館運営審議会	☐ あり ☐ なし ☒ その他 (公民館運営委員会の設置)				
公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	☒ 子どもの体験活動 ☐ 子ども食堂 ☒ 地域学校協働活動 ☒ コミュニティ・スクール ☒ 若者のまちづくり参画 ☐ 自主夜間中学 ☐ 障害者の学び支援 ☐ 日本語を母語としない住民の学び支援 ☒ 健康づくり ☒ 高齢者の学び支援 ☒ 子育て支援 ☒ 家庭教育支援 ☒ 防災 ☐ 地域資源を活用したまちづくり ☐ ボランティア養成 ☐ SNS等オンライン活用 ☐ その他 ()				
施設の特徴、魅力	☐ 複合施設 (☐ 図書館 ☐ 学校 ☐ 生涯学習センター) ☐ その他 () ☒ 自由記述 (学校から徒歩数分の近さを活かして、常に情報共有。通学合宿も毎年開催。)				
各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	☐ 大学 ☒ 高校 ☒ 小中学校 ☒ NPO ☐ 企業 ☒ 各種団体 ☒ 行政機関 ☐ その他 (生馬小学校、上富田中学校、熊野高校、NPO法人くちくまのクラブ、上富田町社会福祉協議会、上富田町教育委員会、おやじの会)				

上富田町生馬公民館

OPEN 8:30

TEL 0739-47-2881



特に力を入れていることや特徴的な取組は何ですか？背景や実施上のポイントなど合わせて教えてください。

●「おうまのひろば」（保育所や幼稚園に入園前の子供と保護者の居場所）

毎週水曜日の午前中は、乳幼児と保護者の居場所として、開放されている。指導員と元保育士のボランティアが待機。申込みの必要はなく、固まったメニューも特に用意されていない。保護者はそれぞれのペースで仲間づくりを行い、子育ての悩みや不安を共有している。また、同事業の卒業生が、次の支援者として事業のサポートを行う風景も見られている。子育てや地域の課題に対して、主体的に関わっていく姿勢が育成されている。

●「寺子屋教室」（放課後の学習支援と居場所づくり）

毎週水曜日の放課後は、生馬小学校の児童の約半分（60人程度）が「ただいま」と公民館に帰ってくる。硬筆教室に参加する児童。待ち時間の間、大教室で卓球やカプラなどで自由に遊ぶ児童。図書室で読み聞かせをしてもらう児童。過ごし方は様々である。迎えにくる保護者にとっては、保護者同士やボランティアスタッフの方々との情報交換の場にもなっており、地域のネットワークを形成していく大きな要素となっている。



公民館としての様々な取組によって得られた、成果や効果にはどのようなものがありますか。（できれば箇条書きで）

特徴的な取組による成果・効果

- 公民館利用者が増加。特に小学校での親子の参加が増加している。
- 公民館行事で知り合った親子の繋がりが、卒業後も地域行事への参画のきっかけとなっている。

これまでの取組全体による成果・効果

- 寺子屋教室に通わせたくて、生馬小学校を選択する保護者もいる。人口減少が課題の中で、生馬小学校はここ数年、児童数が横ばい状態が続いている。



取組の改善・検証を行う仕組みとその方法について教えてください。

- 学校関係者、PTA関係者、父母子ども会関係者、自治体関係者による公民館運営委員会を年間3回開催。
- 運営委員会の中から6名を選出し、広報委員会も設置。事業の広報とともに、成果の検証も行っている。
- 公民館を主体とする地域学校協働活動については、生馬小学校学校運営協議会内でも総括を行っている。

新たに、また、継続して取組を行う上で、苦労した(している)こと、どう乗り越えたか(ようとしてるか)を教えてください。

- 公民館行事への理解は大きい地域であるが、各事業のボランティアスタッフの確保に苦労したことはあった。かつて事業に参加された児童や生徒、その保護者等にターゲットを絞って声かけすることによって、趣旨を理解された協力者として人材の循環がされている。また、週3日公民館に勤務する生涯学習指導員の人脈やコーディネート力が、事業の広がりと深まりを大きくしている。

公民館として大切にしていること、大切にしている考えなどを教えてください。（キーワードは赤字）

- 児童が関わる事業に関しては、距離の近さをフルに活かして、情報交換を密に行っている。学校には登校しにくい児童でも、公民館行事には参加する例もある。学校だけでは体験出来ない教育環境での児童の様子を、随時学校にも伝え、情報共有を行っている。
- 「地域の子供は地域で育てる」を合い言葉に、子供が「色々なタイプの大人」に出会えるように事業を企画している。参加する保護者や地域の方とも役割を分担し、「お客様」を作らない環境を心掛けている。



最後に、これから公民館をどのようにしていきたいと考えていますか。次の仕掛けやビジョンについてもぜひ教えてください。

- これまで個別に関わってくれていた団体の「抱えている人材」同士が出会える仕掛けを作り出していきたい。例として、社会福祉協議会がグループしている地域の高齢者と、管内の小学生とその保護者の出会いの場などを作り出していきたい。公民館を拠点にした3世代交流のような場を作り出すことで、高齢者には人生の経験を伝える場を。小学生、保護者にとっては、生き方のロールモデルを手に入れる場を作り出していきたい。

